メサラジン注腸1g「JG」使用説明書

ご使用の前に必ずお読みください

■このお薬は光及び酸素の影響で分解されやすいため、脱酸素剤とともにアルミ袋に入っています。
ご使用直前にアルミ袋から取り出し、開封後は速やかにご使用ください。
■アルミ袋を開封したものは保存できません。
■上澄み液が変色したものは使用しないでください。

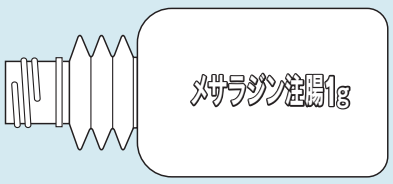
ペンタサ®注腸1gとは薬液ボトルの開栓方法が異なります

ノズルキャップを薬液ボトルに接続する前によく振ってください。
薬液ボトルにノズルキャップを差し込むと接続口のアルミ面が破れ、開栓されます。
ノズルキャップ接続後に振り混ぜると薬液がこぼれることがありますのでご注意ください。

ノズルキャップ接続後は
強く振らないでください

メサラジン注腸1g「JG」製品内容

ノズルキャップ



薬液ボトル

〈付属品〉

ストッパー

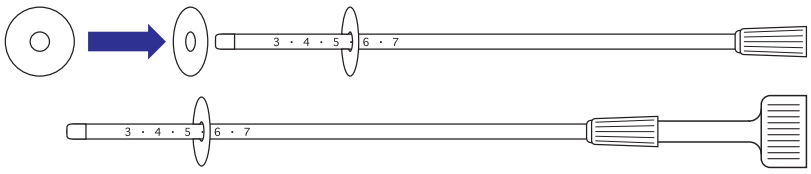
ノズル延長用カテーテル

■柔らかく細長いノズル延長用カテーテルとストッパーが付属しています。
■ノズル延長用カテーテルを使用せずにノズルキャップを直接肛門内へ挿入することも可能です。

カテーテルとストッパーの使い方（必要に応じてご使用ください）

1．円盤状のストッパーをカテーテルの先端から４～６cm（目盛４～６）を目安に差し込んでください。
カテーテルが肛門内に入りすぎると直腸粘膜を傷つけることがありますので、特に初めてご使用される場合はストッパーをご使用ください。

2．カテーテルをノズルキャップに強く差し込んでください。
カテーテルを差し込む前に薬液ボトルとノズルキャップを接続すると、カテーテルを差し込む際に薬液が飛び出すおそれがあります。



※使用中にカテーテルが外れる可能性があるため、しっかりと差し込んでください。

《 ご使用にあたって 》

1．事前に排便を済ませておきましょう。（注腸剤を注入すると便意をもよおすことがあります。）
2．注入した薬液を長時間大腸内に保持（排泄せずに維持）するために、日常生活を妨げない入浴後や就寝前などに注入するのが一般的です。

使　用　方　法

①ご使用前に（必要に応じて行ってください）

■腸を刺激しないために
薬液が冷たいと腸を刺激することがありますので、冬などの室温が低い場合は、適温のお湯につけ、体温程度に温めてご使用ください。
※アルミ袋から容器を取り出して加温する場合は、温度の上がり過ぎにご注意ください。

■スムーズに挿入するために
挿入しづらい場合は、ノズルキャップやカテーテルの上部に潤滑剤（ワセリン、オリーブ油等）を塗ってご使用ください。
※カテーテルを使用する場合は、ノズルキャップに潤滑剤を塗らないでください。

【注意】
■ノズルキャップと薬液ボトルの接続がゆるいと、注入時に薬液がこぼれるおそれがあります。
■まちがって目に入ったり、体に付着した場合は、水で洗い流してください。それでも何かおかしいと感じたら、医師にご相談ください。
■薬液がシーツや下着などに付着するとしみになります。洗濯するなどすぐに洗い流してください。

②カテーテルの使用

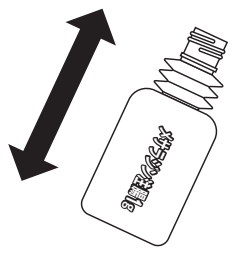
ノズルキャップを薬液ボトルに接続する前に強く差し込んでください。

※必要に応じて行ってください。

カテーテルを差し込む前に薬液ボトルとノズルキャップを接続すると、カテーテルを差し込む際に薬液が飛び出すおそれがあります。

③薬液の懸濁

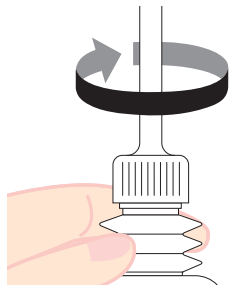
ノズルキャップを薬液ボトルに接続する前に、よく振ってください。



白い沈殿物がお薬です。
上澄み液だけが先にでてしまうと、お薬が薬液ボトルに残ることがあります。

④ノズルキャップの接続

ノズルキャップを回転しながら薬液ボトルに接続してください。



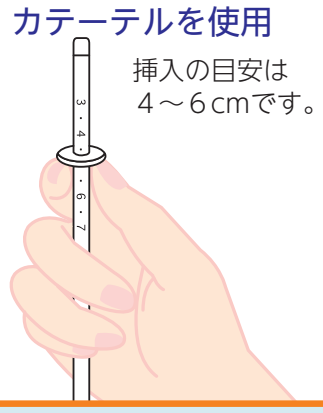
ノズルキャップと薬液ボトルはきつく締めて接続してください。
薬液ボトルを強くにぎると、薬液が飛び出すおそれがあります。

⑤挿入時の容器の持ち方

ノズルのみで使用

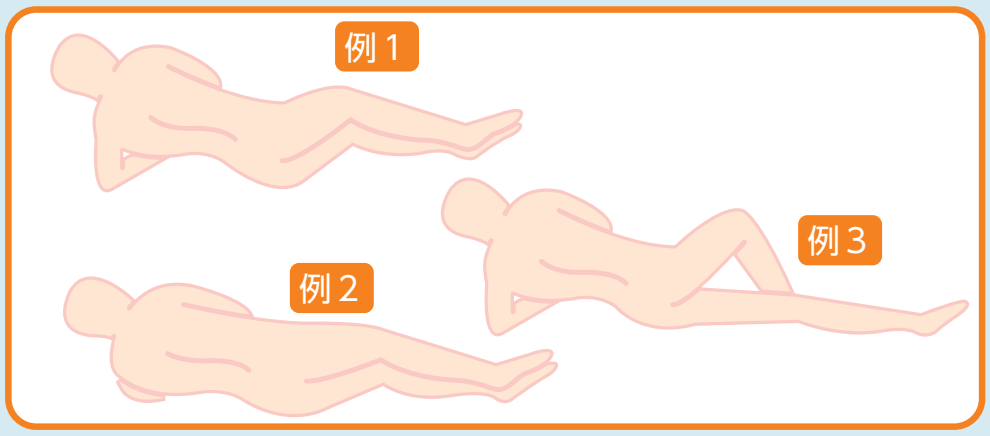
容器を軽く包み込むように持ちます。注入時、薬液がわずかにもれる場合がありますので必要に応じて、同封のポリ袋を手にかぶせてご使用ください。

カテーテルを使用



ストッパーの下部や、挿入の目安となる目盛りに指を合わせて持ちます。
上記の持ち方で挿入しづらい場合は、カテーテルの先端を持ってください。

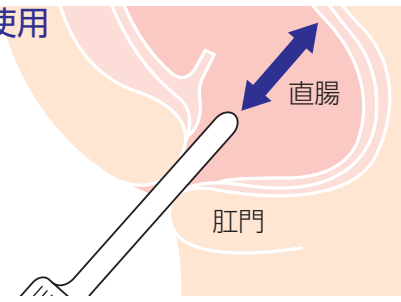
⑥挿入時の体位



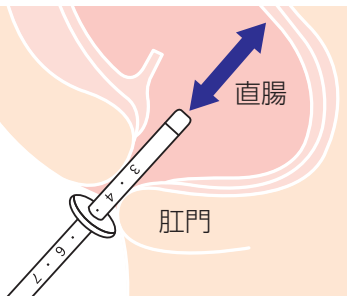
左腰を下にした体位が基本となります。
立った姿勢やトイレで座った姿勢での挿入は、直腸粘膜を傷つける可能性があります。必ず左腰を下にして横になり挿入してください。

挿入時のご注意

ノズルのみで使用



カテーテルを使用

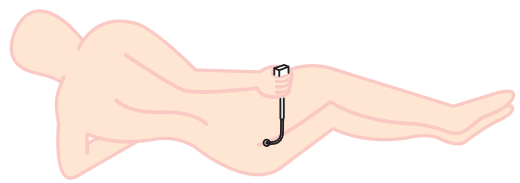


※ノズルが入る長さには個人差があります。無理に挿入すると直腸粘膜を傷つけることがありますのでご注意ください。
※必ず横になって挿入してください。

⑦挿入時と薬液の注入

ノズルのみで使用

カテーテルを使用

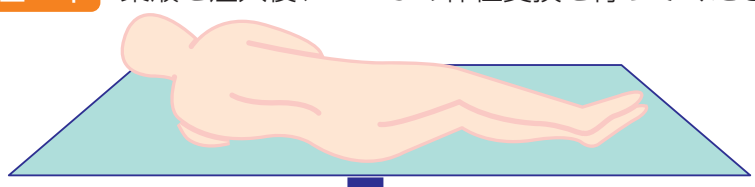


※注入時に薬液がもれる可能性があります。必要に応じて防水シートなどを敷いてご使用ください。
※残液、使用したカテーテル、ストッパーは廃棄し、再利用しないでください。

（1）挿入前に、再度、薬液がこぼれないように混ぜて、白い懸濁液としてください。
　　激しく振ると、薬液がこぼれることがあります。
（2）左腰を下にした体位で、肛門からノズルまたはカテーテルをゆっくりと無理せず慎重に挿入します。
（3）容器を握り締めながら、薬液を注入してください。
　1）はじめは強めに薬液の注入を開始してください。
　2）注入は速やかに行ってください。（注入時間は１分程度が目安です。）
　　時間をかけて注入した場合、ノズル内に白い沈殿物が詰まることがあります。
（4）注入後、容器を握りしめたまま、ゆっくりと引き抜きます。

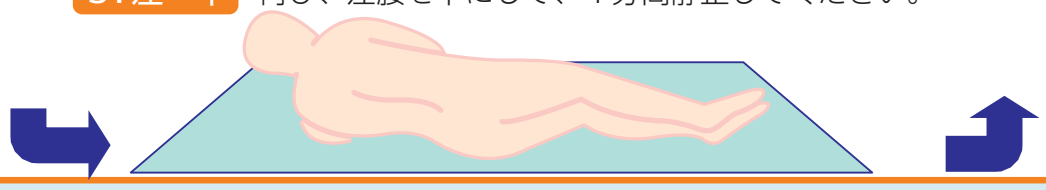
⑧下行結腸（脾彎曲）まで到達させる体位変換　体位変換は医師の指示のもと、必要に応じて行ってください。

1.左　下　薬液を注入後、２～５の体位変換を行ってください。



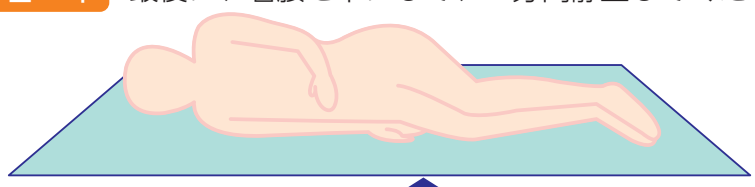
2.腹ばい　腹ばいになり、１分間静止してください。

3.左　下　再び、左腰を下にして、１分間静止してください。



4.仰向け　仰向けになり、１分間静止してください。

5.右　下　最後に、右腰を下にして、１分間静止してください。



■十分な効果を得るためには、注入した薬液をできるだけ長い時間大腸に保持しておくことが大切です。
■薬液を全量入れるとすぐに排出してしまう場合は、無理せず保持できる液量から開始してください。次第に全量が注入できるようになります。

本剤のご使用にあたりまして、ご不明な点、お気付きの点などがございましたら、主治医の先生または薬局の先生にご相談ください。

日本ジェネリック株式会社
MESEN-PG-01 TP